

種名 コウゾ  
万葉時代の呼名 たく・栲



詠人 巫部麻蘇娘子  
万葉集卷四 七〇四

栲繩の永き命を 欲りしくば  
絶えずて人を見まゝく欲りこそ

### 【現代訳】

栲繩のように長い命をと願ったのは、いつまでも絶えることなくあなたを見たいと思ったからこそ

### 【コウゾの解説】 クワ科の落葉低木

ヒメコウゾとカジノキの雑種であり、和紙の原料としても使われている。「紙麻(かみそ)」という語の音便より「こうぞ(かうぞ)」という語が生まれたとする説も存在するほど、古くから和紙材料として知られており、今日でも和紙の主要原料としている。コウゾの皮の繊維は、麻に次いで長く繊維が絡み合う性質が強く、その紙は粘りが強く揉んでも丈夫な紙となる。古くは、檀紙は真弓紙とされているが、平安後期以後の檀紙はダンシと読まれ、楮紙とされている。コウゾの果実は集合果で、甘味があって食べられるが、花糸部分が残っており舌触りが悪いので、クワの実のような果樹としての価値はない。